

欧州と中国を結ぶコンテナ鉄道輸送能力が増強されています。今号ではその概要と、物流への影響についてお伝えいたします。

1. 欧州—中国間のコンテナ鉄道輸送能力の増強

欧州—中国間のコンテナ鉄道輸送が増強されています。欧州から中国へ向かうイーストバウンドサービスは数年前は10本以下であったのが、今日では50本以上に増加し、それらが欧州側の6つのターミナル、中国側の8つのターミナルを結んでいます。同様に中国から欧州へ向かうウエストバウンドサービスも増加しています。中国政府はこれらの鉄道輸送本数を倍増させる計画を立てていますが、政府として中央アジア各国の鉄道ネットワークに数億ドルを投資し、3か月ごとに1つまたは2つの新しいルートが追加されている現状においては、この計画の達成も今や現実的なものとみられています。



写真：AFP/アフロ

2. 物流に与える影響

こうした動向は荷主にとっては魅力的なものです。欧州—中国間の輸送について、航空貨物は24時間未満で貨物を運べる一方で運賃は相対的に高く、他方海上輸送は運賃面では比較的低廉であるもののリードタイムが長くなります。この点鉄道輸送は運賃とリードタイムのバランスがよく、高付加価値製品・自動車部品・産業用機器などがこれに適するとみられています。また消費財のインターネット商取引を運営する会社がこの輸送モードを活用することを検討しているとも言われています。

3. 今後の展開

今後数年間はこうした成長が続くと見込まれています。こうした動きは、米国東海岸と中国を結ぶ輸送についても影響を与えるとの見方もあります。すなわち、米国東海岸の輸出入業者が、スエズ運河やパナマ運河を経由した海上輸送ではなく、大西洋横断輸送と欧州—中国間の鉄道輸送を組み合わせた輸送を選択するようになるかもしれないということです。東海岸とアジアを結ぶ海上輸送は26日から30日の範囲といわれており、これに中国国内でのトラック輸送に数日かかることが見込まれます。一方で大西洋横断輸送と鉄道輸送の組み合わせにより米国東海岸と中国各地への輸送は27日程度になるとの推定があり、リードタイムの面では競争力があること、また大西洋横断輸送は比較的信頼性が高いと言われていることがその要因です。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html